## B1F 癒しを感じる×リハビリに効く 快活になる×空間を明るくする

窓のない地下空間のため
明るい印象を受けるような作品や、
検査・治療を前に不安に思う
気持ちが少しでも和らぐような
作品を展示しています。

1　宮本順三　《チベットラサの雪頓節》　1986年
2　宮本順三　《青海の祭り》　1988年

### おもちゃ作りに生涯をかけた "おまけ博士"こと宮本順三

宮本順三/ZUNZO（1915〜2004）は大阪に生まれ、幼少時から玩具と絵に興味を示していました。彦根高等商業学校（現滋賀大学）時代には美術部をつくり、中之島洋画研究所へ通うなど、絵画制作に励みました。1935年にグリコ株式会社に入社し、念願の"おまけ係"となり、こども達を審査員に迎え、日本と世界の玩具を参考に約3,000種のおもちゃをデザインしました。1960年頃からは、画家として諸民族の「祭りと踊り」をテーマに描き、サロン・ド・パリ受賞、サロン・ドートンヌ、ル・サロンやナショナル・デ・ボザール入選など、精力的に活動し、多くの作品を遺しました。1998年に「豆玩舎ZUNZO（おまけやズンゾ）」を開館し、作品（グリコのおもちゃと絵画）と、世界中を旅して集めた人形・玩具・仮面などの民族文化コレクションを多数展示しています。

宮本順三
《チベットラサの雪頓節》（左）
《青海の祭り》（右）

こんな作品！

「祭りと踊り」をテーマに、チベット族の伝統行事やチベット仏教の祭りの様子を色彩豊かに描いた作品群です。窓のない地下空間ですが、光に溢れる空や人々の信仰と営みを想起させるような作品を展示することで、彩りと賑やかで明るい空気を感じる空間にしています。

## 1F 癒しを感じる×落ち着かせる

緊張感や不安な気持ちを
癒すことのできるような、
落ち着いた色合いの
写真作品を展示しています。

1　津田洋甫　《霧》　1987年
2　津田洋甫　《過ぎゆく秋》　1982年
3　津田洋甫　《春の渓谷》　1986年
A　「BiG-i Art Collection 2013」公募入選作品展示

こんな作品！

津田洋甫
《春の渓谷》（奥）
《過ぎゆく秋》（手前）

奈良県出身で日本の自然を撮り続けた写真家・津田洋甫による風景写真です。水滴や雨など、姿やかたちを変えて循環する日本の自然の中の水の姿を瑞々しく映し出しています。

## 大阪国際がんセンター「アートな病院プロジェクト」

2017年3月の移転・オープンに伴い、「患者様の視点に立脚したサービスの提供」の一環として「アートな病院プロジェクト」を立ち上げ、大阪府が所蔵する美術作品（大阪府20世紀美術コレクション）を外来及び病棟の各フロアに展示しています。2階及び3階の外来には、主要な作家のアート作品を展示する「アートストリート」を設け、2階には、新進芸術家の応募作品の中から入選した、横4.5m×縦2mの絵画（1作品）の展示を行っています。センター内各所にアート作品を鑑賞できる環境を作り、外来診察待ち時間や入院中の患者様や家族の方に鑑賞いただくことで癒し（精神的なストレスの軽減）を提供しています。

### 大阪府20世紀美術コレクション

大阪府では国内外の20世紀後半の美術作品を中心に、約7900点に及ぶ様々な美術作品を「大阪府20世紀美術コレクション」として所蔵しています。「関西の現代作家コレクション」「世界の現代美術」「現代版画コレクション」「現代写真コレクション」など、絵画の他、写真や版画作品も多くあり、それらの管理と活用は大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）が行っています。enoco館内での年数回の企画展の他、外部への貸し出しやアートコーディネートも積極的に行っており、医療機関では他に大阪精神医療センターなどにも作品を展示しています。


【 問い合わせ先 】
地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター事務局
住所：〒541-8567　大阪市中央区大手前3丁目1番69号
電話：06-6945-1181（代表）内線5128　FAX:06-6945-1900
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.mc.pref.osaka.jp/


＜ 鑑賞に際してのお願い ＞
・作品にはお手を触れないでください。
・作品や展示風景の撮影はご遠慮ください。
・診察や検査にお越しの方の通行の妨げにならないようご注意ください。

### 大阪国際がんセンターについて

当センターは、患者視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発を理念に掲げ、都道府県がん診療連携拠点病院・特定機能病院として国内トップクラスの先進的ながん治療に取り組んでいます。また、国際的な医療貢献の推進、次世代がん医療の研究開発、がん予防の取り組みを積極的に推進しています。がんストレス対策としては、アート作品の展示、漫才・落語の公演、クラシックコンサートの開催など、患者様の癒しにつながる取り組みを進めています。


ガイドマップ企画・編集：大阪府立江之子島文化芸術創造センター［enoco］


# 大阪国際がんセンター「アートな病院」プロジェクト ガイドマップ

Osaka International
Cancer Institute

# The Artful Hospital Project

2019

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
Osaka International Cancer Institute

金光松美《太平洋の夜空》

## 2F 大阪国際がんセンター「絵画公募プロジェクト」入選作品

新進芸術家の発掘のため、建畠晳氏（多摩美術大学学長）、秋元雄史氏（東京藝術大学教授・大学美術館長）を審査員に迎えた絵画公募プロジェクトを行い、巨大なキャンバスの入選作品1点を選出しました。

まつながえみ
《アカツキワンダーランド》

※展示場所については2Fフロアのページをご参照ください。

**作品コンセプト**

昼と夜の入り混じった夕暮れ時の光
風景が輝き出す瞬間
自然、空気、時間、出会った人々
いろんなものから力をもらって
前を向いて生きていく。
未来に向かって進んでいく。

**作家プロフィール**

2003年　倉敷芸術科学大学芸術学部美術学科卒業
2005年　倉敷芸術科学大学大学院修士課程芸術専攻美術研究科修了
　　東京を中心に個展、グループ展を行う
2005年　倉敷現代アートビエンナーレ・西日本　大原美術館（岡山）JFEスチール賞
　　夢広場はるひビエンナーレはるひ美術館（愛知）町民賞
2006年　5days JENAS FACTORY ART AWARD 2006 グランプリM展 高知市文化プラザ かるぽーと（高知）優秀賞
2009年　VOCA展　上野の森美術館（東京）入選
2011年　SICF12（東京）入選

**選評**

**建畠 晳**（多摩美術大学学長）

病院の絵画というのは心理的な効果からいってもなかなか難しい条件を満たさなければならないが、まつながえみは確かな技量で見事にクリヤーしているように思う。入選作品は画面の奥に明るい光をたたえた樹木の茂みの光景で、逆光に浮かび上がる葉のシルエットの重なりが美しい。柔らかな色調と相俟って、どこか不思議なファンタジーを感じさせる作品であり、病院を訪れる人たちの心を優しく和ませてくれるにちがいない。

**秋元 雄史**（東京藝術大学教授・大学美術館長）

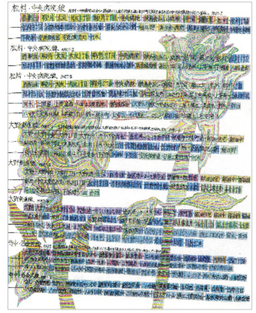
まつながえみさん作の「アカツキワンダーランド」は、4,5m×２mの大作である。きっと診療室の大きな壁に似合うだろう。「アカツキワンダーランド」は、日の出頃のほのかに明るくなってきた時間帯の森を描いている。一種の幻想世界かなと思う。斜めから差し込む光が空間を満たして森全体にひろがっている。植物はシルエットになっている。朝を迎えるときの独特な静けさをもった時間帯だ。この作品は、これから診療を待つ人達や療養している人たちの心の慰みになることだろう。

## 1F 「BiG-i Art Collection 2013」公募入選作品展示

障がいのある方たちの社会参加を進めるとともに、アートを通じて共に生きる喜びを社会に発信するプロジェクト（2013年／主催：国際障害者交流センター ビッグ・アイ）の入選作品4点を展示しています。

**その他の展示作品**

マルコ・バルビエ《ロッテルダム橋》
松本 美千代《鹿》
タクール・シュレスタ《無題》

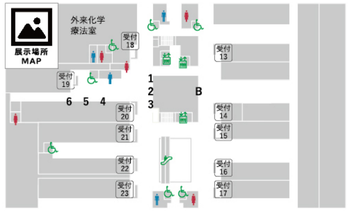


岩坂晋哉
《カラフルパラと理想のバス運行表》

※展示場所については1Fフロアのページをご参照ください。

## 2F 快活になる×空間を明るくする

診察に訪れる方が多く利用するパブリック性の高い空間であり、「アートな病院」の顔となるような代表的な作品を展示しています。大きな画面、力強い色彩など、印象的な絵を見ることで活き活きとした気持ちになっていただけるような空間にしています。

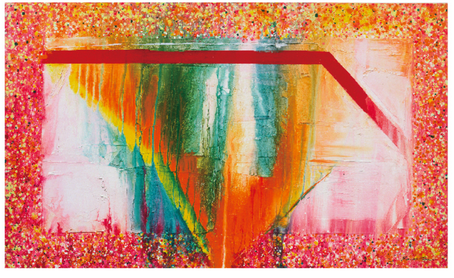



1　上前智祐　《作品（黄・横線）》 1971年
2　上前智祐　《縫（紫・緑）》 1981年
3　上前智祐　《縫（白・赤・黄）》 1981年
4　金光松美　《太平洋の夜空》 1987年
5　金光松美　《砂漠の午後》 1980年
6　金光松美　《嵐》 1980年
B　大阪国際がんセンター「絵画公募プロジェクト」入選作品
　/まつながえみ《アカツキワンダーランド》

**ワンポイントコラム**

### アメリカで活躍した画家・金光松美

金光松美（1922-1992）は、1950年代以降の抽象表現主義を牽引した旗手の一人として、戦後アメリカで活躍した帰米2世の日系人画家です。アメリカで生まれた金光は3歳から18歳を広島の祖父母の元で過ごしました。その後単身渡米し、二重国籍であった為アメリカ軍に徴兵されます。日米関係が悪化し日系人をとりまく環境が厳しくなる中、絵を描くことができた事で将校の肖像画、新聞の挿絵を描くなどし、軍の中でも画家として扱われるようになりました。戦後、ニューヨークの美術学校で日本人画家・国吉康雄に学び、また、当時ニューヨークで活躍していた抽象表現主義の代表的作家ジャクソン・ポロックなどと交友を深めました。国吉の死後、1965年にはロサンゼルスへ移住し、大学で教鞭をとりながら、晩年は太平洋や気象をテーマとした色彩豊かな作品を数多く残しました。



こんな作品！

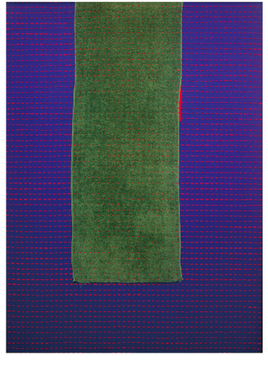
金光松美　《砂漠の午後》

太平洋や星空、光や嵐といった気象現象、そして自然の中の「エネルギー」や「気」のようなものを色彩豊かに、直感的に描いた作品です。

こんな作品！

上前智祐　《縫（紫・緑）》

カンヴァスを細かい点描で埋め尽くした油彩画や、布と糸を丹念に縫い重ねるなど緻密な手作業を積み重ねる手法が特徴です。その作品からは、作家の深い思索と時間の集積が静かに伝わってくるようです。



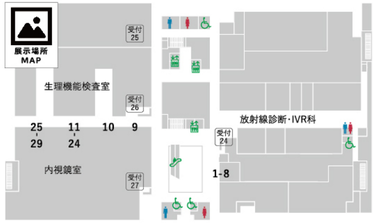
**ワンポイントコラム**

### 関西を代表する戦後日本美術のグループ「具体美術協会」

1954 年に吉原治良をリーダーに芦屋で結成されたグループです。「人のまねをするな」というモットーを掲げ、斬新な抽象絵画や、体を使ったパフォーマンス、野外での展示など、新しい表現の試みがなされ、世界的に見ても先鋭的な活動がなされました。72年に吉原の急死によって解散するも、残されたメンバーたちはその精神を受け継ぎ、作家としての活動を続けています。また80年代以降に国内外で展覧会が開催され再評価が進み、戦後の日本美術を代表する運動として海外でも「GUTAI」として知られています。今回は具体美術協会創立メンバーであり、カンヴァスに油彩やマッチの軸を塗り込めたり、おがくずや布と糸を縫い重ねるなど、様々な素材を用い、地道な作業を積み重ねる手法で制作した、上前智祐の作品を展示しています。

## 3F 落ち着かせる×コミュニケーションを生む

様々な方が行き交う場所でもあるため、懐かしさを覚える落ち着いた作品や、患者様同士や病院職員との会話のきっかけになるような親しみを感じさせる作品を展示しています。




1　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品21》
2　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品3》
3　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品37》
4　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品77》
5　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品54》
6　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品98》
7　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品48》
8　田中幸太郎　《抽象写真（花火による）作品169》
9　柴清文　《遠方からの使者》 1993年
10　小田まゆみ　《IN THE POND》 1987年
11　須田剋太　《佐渡遊の割戸》 1976年
12　須田剋太　《蓮華峰寺地蔵の群》 1976年
13　須田剋太　《武田信玄画像》 1976年
14　須田剋太　《南蛮吹き》 1976年
15　須田剋太　《南蛮船》 1976年
16　須田剋太　《順徳帝火葬跡赤松林》 1976年
17　須田剋太　《金山穿子が使用した金山展示室》 1976年
18　須田剋太　《蘇州盤門》 1981-82年
19　須田剋太　《盤門、陵城門》 1981-82年
20　須田剋太　《成都郊外》 1981-82年
21　須田剋太　《葛巾の像（B）》 1982年
22　須田剋太　《昆明市街（C）》 1982年
23　須田剋太　《茶館（景星茶室）》 1982年
24　須田剋太　《清浄寺モスク上》 1984年
25　三尾公三　《フォーカス原画_735》 1996年
26　三尾公三　《フォーカス原画_167》 1985年
27　三尾公三　《フォーカス原画_120》 1986年
28　三尾公三　《フォーカス原画_298》 1987年
29　三尾公三　《フォーカス原画_695》 1995年

**ワンポイントコラム**

### 司馬遼太郎とともに旅した画家 須田剋太

1971年より「週刊朝日」にて連載されていた司馬遼太郎著『街道をゆく』。その挿絵を連載当初より1990年まで担当したのが画家・須田剋太です。司馬とともに旅をし、日本国内の各地はもちろん、アジア、ヨーロッパの国々など63ヶ所もの街道を歩きました。初期はモノクロームでの描画が中心でしたが、徐々に色彩豊かになっていきます。須田の視点を通して描かれる街並み、そこに暮らす人々の習俗や文化の姿は、今もなお生き生きとその地の魅力を伝えてくれます。

こんな作品！

須田剋太
《茶館（景星茶室）》

須田剋太による司馬遼太郎『街道をゆく』の挿絵原画です。今回は1800点を超えるシリーズ作品のうち、佐渡のみちと中国シリーズを展示しています。

こんな作品！

三尾公三
《「フォーカス原画」シリーズ
（左から[735][167][120][298][695]）》

写真週刊誌『FOCUS』の表紙絵の原画シリーズです。筆跡が残らないようにアクリル絵の具をエアブラシで吹き付ける手法で描かれており、まるで写真のような質感を持つ絵画作品です。